

2019(平成31)年度事業報告書

自 2019年4月1日

至 2020年3月31日

学校法人多摩美術大学

目 次

I. 学校法人の概要

1. 建学の理念・精神	2 頁
2. 沿革	2 頁
3. 設置学校等	4 頁
4. 目的・教育目標	4 頁
5. 入学定員・収容定員・学生数・定員充足率	6 頁
6. 学部学科・専攻別進路状況	7 頁
7. 役員に関する情報	8 頁
8. 教職員に関する情報	8 頁
9. 学習環境に関する情報	9 頁

II. 事業の概要

1. 中長期的な基本計画	10 頁
2. 2019（平成 31）年度 事業計画と達成状況	11 頁
3. 各事務部署の取組み	17 頁

III. 2019（平成 31）年度 予算執行状況及び財務状況

1. 資金収支計算	26 頁
2. 事業活動収支計算	27 頁
3. 貸借対照表	28 頁
4. 財務比率	29 頁
5. 財産目録	30 頁

I. 学校法人の概要

1. 建学の理念・精神

本学の淵源は、1935（昭和10）年9月開設の多摩帝国美術学校にある。同校は、北吟吉、杉浦非水、井上忻治、牧野虎雄らが中心となって、官立の美術学校にはない「自由なる精神」が生み出す美術の根源を求めて、東京府（現在の東京都）東京市世田谷区上野毛の地に創設された。

その設立趣意書において、「美術は自由なる精神の所産たるを想ふとき、我が美術教育界の缺陷は力説に價するものといふべし。我等同士がこゝに我が美術教育界の缺陷を補填し、我が國美術の振興に寄與せんとする微意に出づ」と壮大な決意を謳いあげている。

美術・デザインの領域における専門教育が官立学校に頼る中、それに匹敵する私立学校を設立し、美術・デザイン領域における専門教育の充実を図ろうとの理念の下に本学は設立された。以来、今日に至るまで美術・デザイン領域における専門職業人、独立した作家の育成を理念としている。

2. 沿革

- | | |
|-------------|--|
| 1935(昭和10)年 | 多摩帝国美術学校を5年制の美術学校(日本画科、西洋画科、図案科、彫刻科)として現在の東京都世田谷区上野毛の地に創設 |
| 1937(昭和12)年 | 財団法人設立。女子部が創立され、女子の入学が許可 |
| 1947(昭和22)年 | 専門学校令により、多摩造形芸術専門学校となり、中等教員無試験検定の指定校となる。 |
| 1950(昭和25)年 | 旧制の多摩造形芸術専門学校に3年制の短期大学、多摩美術短期大学(絵画科、彫刻科、造形図案科)を併設 |
| 1951(昭和26)年 | 学校法人に組織変更 |
| 1953(昭和28)年 | 学制改革にともない、4年制の新制大学多摩美術大学を開学(美術学部・絵画科、彫刻科、図案科) |
| 1954(昭和29)年 | 川崎市溝の口校地に多摩芸術学園(2年制 映画科、演技科)を設置 |
| 1955(昭和30)年 | 多摩美術短期大学を廃止 |
| 1964(昭和39)年 | 大学院美術研究科修士課程を設置 |
| 1969(昭和44)年 | 芸術学科、建築科の2科増設の認可 |
| 1971(昭和46)年 | 年次計画により八王子移転を開始。建築科開講 |
| 1974(昭和49)年 | 美術学部の八王子移転完了 |
| 1981(昭和56)年 | 芸術学科を開講し、美術学部は5科となる。 |
| 1982(昭和57)年 | 多摩美術大学附属美術参考資料館が、博物館相当施設の指定を受け一般に公開 |
| 1989(平成元年)年 | 美術学部二部(絵画学科、デザイン学科、芸術学科)開設 |
| 1992(平成4)年 | 多摩芸術学園廃止。美術学部臨時定員増 |
| 1995(平成7)年 | 大学院美術研究科昼夜開講制開始 |
| 1998(平成10)年 | 美術学部に情報デザイン学科開設、建築科・デザイン科の改組及びデザイン科・芸術学科の定員減により環境デザイン学科、生産デザイン学科、工芸学科を開設。建築科募集停止。美術学部絵画科、彫刻科、デザイン科を絵画学 |

	科、彫刻学科、グラフィックデザイン学科に名称を変更。大学院美術研究科芸術学専攻開設
1999(平成 11)年	美術学部二部を改組し、造形表現学部（造形学科、デザイン学科、映像演劇学科）開設。
2000(平成 12)年	附属美術館を多摩センターへ移転
2001(平成 13)年	大学院博士後期課程開設。附属メディアセンター開設
2002(平成 14)年	大学院美術研究科工芸専攻開設
2005(平成 17)年	美術学部絵画学科、グラフィックデザイン学科、環境デザイン学科、芸術学科定員増
2006(平成 18)年	美術学部絵画学科、グラフィックデザイン学科、生産デザイン学科、環境デザイン学科、大学院美術研究科デザイン専攻定員増。附置芸術人類学研究所を設置
2007(平成 19)年	大学院美術研究科デザイン専攻定員増
2008(平成 20)年	美術学部生産デザイン学科定員増
2012(平成 24)年	大学院美術研究科芸術学専攻身体表現研究領域開設
2014(平成 26)年	造形表現学部募集停止 美術学部統合デザイン学科、演劇舞踊デザイン学科を開設
2016(平成 28)年	大学院美術研究科絵画専攻日本画夜間主コース、油画夜間主コース、デザイン専攻コミュニケーションデザイン研究領域、芸術学専攻身体表現研究領域募集停止
2018(平成 30)年	大学院美術研究科デザイン専攻統合デザイン研究領域、演劇舞踊専攻を開設

3. 設置学校等

(学) 多摩美術大学 理事長 青柳 正規

多摩美術大学 学 長 建畠 哲

【所在地】

上野毛キャンパス：東京都世田谷区上野毛 3-15-34

八王子キャンパス：東京都八王子市鎌水 2-1723

学部・研究科	学科等	専 攻
大学院 美術研究科	博士後期課程	美術
	博士前期課程	絵画、彫刻、工芸、デザイン、芸術学、演劇舞踊
大学 美術学部	絵画	日本画
		油画
		版画
	彫刻	
	工芸	
	グラフィックデザイン	
	生産デザイン	プロダクトデザイン
		テキスタイルデザイン
	環境デザイン	
	情報デザイン	
	芸術	
	統合デザイン	
演劇舞踊デザイン		

4. 目的・教育目標

[大学の目的・教育目標]

大学の目的として、学則の第一章（総則）の第一条に、「広く造形芸術全般について高度な学理技能を教授研究し、あわせて国際社会に対応する幅広い教養を身に付けた人格の形成を図り、現代社会に貢献する優れた芸術家、デザイナー並びに教育者研究者等を育成する」としている。

また、大学院学則の第三条に、「造形芸術全般について高度な学理技能および応用を教授研究し、その深奥を究めて、文化の進展に寄与する」としている。

教育目標として、専門職業人、独立した作家を育成する上で必要となる、「高い専門性と総合性の融合」を掲げている。

[大学院美術研究科博士後期課程（博士）の目的・教育目標]

社会の急速な変化や学術研究の著しい進展に伴い、幅広い視野と総合的な判断力を備えた人材を育成することを目的としている。よって領域に応じた専攻を有する修士課程とは異なり、美術専攻 1 専攻のみを設置し、領域に捕われない美術創作研究と美術理論研究の確立を目標としている。

[大学院美術研究科博士前期課程（修士）の目的・教育目標]

美術・デザイン領域における高度な知識と技能を備えた人材を育成するため、1964年に芸術系私立大学ではわが国初めての認可を受けた。絵画、彫刻、デザインの専攻を設置し、1998年に芸術学専攻、2002年には工芸専攻を開設して、1研究科5専攻の編成としている。

クラス制の色合いを濃くし、担当教員によるマンツーマンの指導体制を基本とし、領域の専門性を深めることを目標としている。国際的な視野を具えた人材育成のため、多くの外国人留学生を受け入れ、国際化を図っている。

[美術学部の目的・教育目標]

国際社会に対応する幅広い教養を身に付けた人格の形成を図り、現代社会に貢献する優れた芸術家、デザイナー並びに教育研究者等の育成を目的として、教育研究の内容の充実と高度化を図っている。

美術大学の性格上、来るべき社会の現実に対応する専門的な技能の修得と訓練に重きを置いている。しかし芸術の創作は、人間を忘れ学理を離れた、単なる職能人にとどまることによって達成されないものである。教育理念として懇切な実技指導に加えて、次の2つの特徴が挙げられる。

第一に、学理の尊重は創立以来の本学の伝統である。専門教育ならびに教養・総合教育の両者ともに、広い基礎的教養を育成し、学理を中心とした専門教育の推進に努めている。

第二に、人間の主体性の確立と創造性の開発は、美術教育に不可欠の条件として特に重視している。教養・学理・実技にわたる教育は、同時に豊かな心情と自由な創意と批判的な精神に貫かれた、芸術的個性の形成を目指している。

以上の教育目標実現のため、少人数教育を採っている。カリキュラムは少数の学生を単位に編成され、特にゼミナールを強化して、人間的接触による指導の徹底を期している。

また、課題解決型の授業により、自ら思考し、具体化する技能を身に付けることを何よりも重視している。

5. 入学定員・収容定員・学生数・定員充足率

【大学院】

2019(令和元)年5月1日現在

キャンパス	研究科	専攻	研究領域	入学定員	収容定員	学生数	定員充足率
八王子 及び 上野毛	美術研究科 博士前期課程	絵画	日本画	43	86	88	102.3%
			油画 版画				
		彫刻		10	20	15	75.0%
		工芸	陶	9	18	9	50.0%
			ガラス 金属				
		デザイン	グラフィックデザイン プロダクトデザイン テキスタイルデザイン 環境デザイン 情報デザイン 統合デザイン	62	124	149	120.2%
	芸術学	芸術学	5	10	9	90.0%	
演劇舞踊	演劇舞踊 劇場美術デザイン	8	16	12	75.0%		
小計		137	274	282	102.9%		
	博士後期課程	美術		5	15	16	106.7%
合計				142	289	298	103.1%

【学部】

キャンパス	学部	学科	専攻・コース	入学定員	収容定員	学生数	定員充足率
八王子	美術	絵画	日本画	195	780	(159)	107.2%
			油画 版画			(539) (138)	
		彫刻		30	120	137	114.2%
		工芸	陶	60	240	255	106.3%
			ガラス 金属				
		グラフィックデザイン		184	736	769	104.5%
		生産デザイン	プロダクトデザイン テキスタイルデザイン	104	416	451 (177)	108.4%
		環境デザイン		80	320	359	112.2%
情報デザイン	メディア芸術 情報デザイン	122	488	571	117.0%		
上野毛	芸術	40	160	188	117.5%		
	統合デザイン		120	480	521	108.5%	
	演劇舞踊デザイン		80	320	334	104.4%	
合計				1,015	4,060	4,421	108.9%

()内は専攻内数

総計				1,157	4,349	4,719	108.5%
----	--	--	--	-------	-------	-------	--------

6. 学部学科・専攻別進路状況

2020(令和2)年3月31日現在

大学院	修了者	就職希望者	就職者	進学者	その他
絵画	45 (38)	22 (18)	18 (15)	4 (4)	23 (19)
彫刻	7 (3)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	5 (3)
工芸	6 (5)	5 (4)	5 (4)	0 (0)	1 (1)
デザイン	78 (48)	58 (35)	35 (21)	3 (1)	40 (26)
芸術学	3 (2)	2 (1)	2 (1)	1 (1)	0 (0)
演劇舞踊	6 (5)	4 (4)	4 (4)	0 (0)	2 (1)
美術(後期課程)	5 (1)	2 (1)	2 (1)	0 (0)	3 (0)
合計	150 (102)	94 (63)	67 (46)	9 (6)	74 (50)
修了者に対する割合			44.7%	6.0%	49.3%

美術学部	卒業生	就職希望者	就職者	進学者	その他
絵画	194 (159)	85 (72)	70 (59)	39 (32)	85 (68)
日本画	40 (36)	14 (13)	12 (11)	11 (9)	17 (16)
油画	127 (102)	58 (49)	50 (42)	19 (15)	58 (45)
版画	27 (21)	13 (10)	8 (6)	9 (8)	10 (7)
彫刻	36 (22)	16 (11)	13 (9)	10 (5)	13 (8)
工芸	61 (52)	37 (34)	30 (27)	12 (9)	19 (16)
グラフィック	185 (143)	146 (112)	125 (97)	9 (8)	51 (38)
生産	94 (64)	75 (51)	68 (45)	4 (2)	22 (17)
プロダクト	64 (35)	51 (28)	47 (25)	2 (0)	15 (10)
テキスタイル	30 (29)	24 (23)	21 (20)	2 (2)	7 (7)
環境	77 (41)	56 (34)	51 (31)	6 (2)	20 (8)
情報	124 (91)	102 (77)	76 (54)	6 (4)	42 (33)
メディア芸術	57 (42)	43 (34)	30 (23)	4 (2)	23 (17)
情報デザイン	67 (49)	59 (43)	46 (31)	2 (2)	19 (16)
芸術学	42 (31)	25 (20)	20 (16)	5 (3)	17 (12)
統合	117 (89)	89 (71)	67 (53)	5 (3)	45 (33)
演劇舞踊	75 (56)	35 (28)	33 (28)	0 (0)	42 (28)
演劇舞踊	45 (27)	13 (7)	12 (7)	0 (0)	33 (20)
劇場美術デザイン	30 (29)	22 (21)	21 (21)	0 (0)	9 (8)
合計	1005 (748)	666 (510)	553 (419)	96 (68)	356 (261)
卒業生に対する割合			55.0%	9.6%	35.4%

()内は女子学生内数

7. 役員に関する情報

2019(平成 31)年 4 月 1 日現在

役員(10名)		評議員(20名) (五十音順)	
理事 7名		評議員	青柳 正規
理事長	青柳 正規	評議員	飛鳥田 一郎
理事(学長)	建島 哲	評議員	安楽 康彦
理事	飛鳥田 一郎	評議員	井上 雅之
理事	田淵 諭	評議員	大貫 卓也
理事	野口 裕史	評議員	岡村 桂三郎
理事	渡邊 敏	評議員	楠 房子
理事	和田 達也	評議員	久保田 晃弘
		評議員	小泉 俊己
監事 3名		評議員	高橋 正
監事	荒川 直	評議員	忠政 重信
監事	中元 文徳	評議員	建島 哲
監事	森 三千郎	評議員	田淵 諭
【参考】 理事定数 7～9名 監事定数 2～4名 評議員定数 19～21名		評議員	野口 裕史
		評議員	平出 隆
		評議員	深澤 直人
		評議員	水上 嘉久
		評議員	諸川 春樹
		評議員	山下 恒彦
		評議員	和田 達也

8. 教職員に関する情報

2019(令和元)年 5 月 1 日現在

教員数 (本務者)		教員数 (兼務者)	
学長	1名(0名)		
教授	109名(22名)	客員教授	60名(17名)
准教授	19名(3名)		
講師	13名(5名)	非常勤講師	412名(140名)
学部助手	43名(22名)		
大学院助手	3名(2名)		
合計	188名(54名)	合計	472名(157名)

() 内は女性教員内数

◆教員の保有学位・実績等：多摩美術大学教員業績公開システム <http://faculty.tamabi.ac.jp/>

職員数	159名(75名)
-----	-----------

9. 学習環境に関する情報

上野毛キャンパス 大学院 美術学部	[所在地] 東京都世田谷区上野毛 3-15-34
	[主な交通手段] 東急大井町線「上野毛駅」下車、徒歩 3 分 東急田園都市線「二子玉川駅」下車、徒歩 12 分
	[キャンパスの概要] 主な施設：本館、1号館、2号館、3号館、 講堂、図書館、A棟、B棟、演劇舞踊スタジオ

八王子キャンパス 大学院 美術学部	[所在地] 東京都八王子市鎌水 2-1723
	[主な交通手段] J R 横浜線・京王相模原線「橋本駅」下車、神奈川中央交通バス「多摩美術大学行」8分 J R 「八王子駅」下車、京王バス「多摩美術大学行」20分
	[キャンパスの概要] 主な施設：本部棟、絵画東棟、絵画北棟、彫刻棟群、工芸棟群、デザイン棟、テキスタイル棟、情報デザイン棟・芸術学棟、共通教育センター、図書館、メディアセンター、レクチャーホール、アートテーク、グリーンホール、体育館、T A Uホール、工作センター、第二工作センター、学生クラブ棟
[運動施設の概要] 体育館、グラウンド、テニスコート	

[学外施設]

- ・ 大学附属美術館（東京都多摩市）
- ・ 富士山麓セミナーハウス（山梨県）
- ・ 奈良古美術セミナーハウス（奈良県）

[附置研究所]

- ・ 芸術人類学研究所（八王子キャンパス）

Ⅱ. 事業の概要

1. 中長期的な基本計画

近年、社会に対して大学が担うべき役割は大きく変化してきている。グローバリズムの波が押し寄せる一方では、地域への貢献が強く期待されており、また AI の飛躍的な進展によって産業構造も流動化しつつある。芸術系大学である本学も当然ながらそうした状況に柔軟かつ大胆に対応していかなければならない。長い伝統の中で培われてきた安定した基盤を踏まえ、芸術の王道を行くという矜持を保ちつつ、新たな時代を先導的に切り開いていく人材を育成するという大いなる使命を果たすべく、決意を新たにしているところである。

本学では建学以来「自由と意力」をモットーに掲げてきたが、それを踏まえた具体的な教育方針としてはディプロマ・ポリシー（卒業の認定に関する方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）、アドミッション・ポリシー（入学者の受入れに関する方針）という三つのポリシーを定め、多様化し複雑化する現代社会のなかで、芸術に立脚し、能動的に未来を切り拓くことのできる人材を養成することを、その使命であると考えている。長期的な事業計画もそれらに基づいて作成されているが、従来以上に重視されているのは、型にはまった職業観のみに拘束されることのない多様な人材を送り出すために様々な領域をまたぐプログラムを導入し、また入試においても複線化を推し進めて多様な資質を評価しようとしていることである。

アドミッション・ポリシー改革の手始めとして 2016 年 11 月に全学科において推薦入試を実施し、今年 2 月には学力を重視した入学試験（センターⅡ）を 5 学科に増やして、表現者としてオリジナリティ溢れる創造力・発想力・表現力・企画力・応用力・柔軟性等を備えた意欲ある多様な入学生を迎えたところから起動した。

さらに学長のリーダーシップのもとに、2018 年から附属アートアーカイヴセンターを立ち上げ「創造のためのアーカイヴ」を標榜する学内横断的な研究組織で、関連資料を集積するばかりではなく、その成果を積極的に Web、出版、シンポジウム、展覧会などで発信しようとするもので、学内の研究、教育、創作活動を活性化させると共に学外との交流拠点となる活動を開始した。

2019 年度の事業計画策定にあたり、その前提となる中長期の基本計画は以下の通りである。

- (1) 教育及び研究体制の整備と再点検
- (2) 学生受け入れ態勢の強化
- (3) 国際的な美術家、デザイナー、教育者育成のための環境整備
- (4) 国際交流の推進・制度化
- (5) 専門性と総合性の融合を目指した教育改革
- (6) 教育・研究環境の充実に向けたキャンパス整備
- (7) 管理運営の強化

(1) 教育及び研究体制の整備と再点検

1. 教育課程、教育内容、教育方法等の改善

①教育課程の体系化

カリキュラム、シラバス、時間割、出校表等の点検により教育課程を体系的に整備し授業と学事を円滑に実施した。

②カリキュラム改革への取り組み

2015 年度に改訂した教養教育カリキュラム設計書に基づく、共通教育時間割のゾーン・ルール化やシェイプアップ化などの改革を進め、本学に相応しいキャリア教育の実践に努めた。

③美術研究科博士前期（修士）課程における 2018 年度新設課程の計画履行

デザイン専攻・統合デザイン領域及び演劇舞踊専攻の設置趣旨、目的に沿った教育研究活動計画を完全履行した。

④産学官連携、地域連携、高大連携、大学間連携

全国芸術大学系コンソーシアム、大学コンソーシアム八王子、相模原・町田大学地域コンソーシアム、学校法人昭和大学などとの連携協働を通じて様々な組織や地域と芸術文化の振興、事業展開により芸術実践活動及び人材育成を推進した。

⑤多様化する学生への対応

適切、親密な履修相談等を通じて欠席過多学生やケアを必要とする学生への修学支援を推進した。

2. 大学基準協会認証評価（2015 年度申請）結果の対応

2018 年度に継続して以下の課題解決に取り組んだ。

【教員・教員組織】

①教育課程の編成・実施方針、FD 活動

美術研究科の教育課程の編成・実施方針を課程ごとに定めた。

美術学部の教育課程の編成・実施方針は、内容を見直し Web サイトで公表した。

授業改善の他、教員の資質向上のための FD 活動として研修会や講演会などを継続実施した。

【教育内容・方法・成果】

②教育課程・教育内容

美術研究科博士後期課程は課程制大学院制度の趣旨に照らして改善し、同課程に相応しい教育内容の提供を行なった。

③教育方法

年間履修登録可能単位数の上限設定を行なった。

美術研究科の博士前期課程における研究指導や学位論文作成指導を研究指導計画に基づいて確実に行った。

④成果

「課程博士」の取り扱いを見直すとともに課程制大学院制度の趣旨に留意して修業年限内の学位授与を促進した。

美術研究科博士前期課程及び博士後期課程において学位論文や作品の審査基準を「履修案内」等に明記した。

【内部質保証】

⑤自己点検・評価

全学的な PDCA サイクルを機能させるため学内改革・大学評価申請本部の設置、構成メンバー、審議事項、自己点検・評価の周期等を定め、内部質保証についての恒常的な組織体制が機能するよう改善を行なった。

3. 三つのポリシーに基づく PDCA サイクルの推進

再整備された三つのポリシー<ディプロマ[卒業認定]、カリキュラム[教育課程編成]、アドミッション[入学受入れ]>に基づく改革の実施、取組みの評価、改善を行う PDCA サイクルを推進した。

4. 研究成果発表の充実

①アートテーク

ギャラリースペースやアーカイヴ研究、各種コレクション収蔵、自由デッサン室、大学院博士後期課程アトリエ、メモリアルルームなどで構成される知と創造の芸術的複合施設の利用による各種研究成果発表の充実向上を進めた。

②各棟ギャラリー

各棟所在のギャラリー運営を各研究室へ移管する事で可能になった適宜効果的な教育研究成果の発表を実施した。

(2) 学生受け入れ態勢の強化

1. 推薦入学試験の実施

本学も激しい変化にさらされた社会環境にあって、文化芸術のさまざまな局面で活躍し得る人材を育成することを重要なミッションとして掲げてきた。

全学的に導入した推薦入試はその意図を、先へと進めるもので一般入試には無い面接試験などを通して各分野で望まれる資質、学びへの積極的な意欲、将来への明確な姿勢などが総合的に試された結果、表現者としてオリジナリティに溢れた多様な入学生を迎えることができた。

2. オープンキャンパス・進学相談会等の取り組み

オープンキャンパスと進学相談会を同時開催して来場者に本学の教育研究施設や本学学生の元気と熱意を体感してもらう機会とした。

さらに 11 月開催の芸術祭でも進学相談会を開き適宜適切な情報提供を行った。

また高等学校教員が開く各種大会や協議会、研究会とも繋がり強化を図って本学の活動状況や取組みを良く知ってもらう機会とすることができた。

3. 学生支援

①学生生活調査の結果を活用した学生支援体制の構築を図った。

②八王子キャンパス南側、隣接所有地に学生寮（竣工 2020 年 11 月予定）建築を推進した。

③2015 年から本学学生の受入れが始まった優先寮への入居者を更に拡大した。

【優先寮の概要】

施設名 ディアコニア橋本（株式会社共立メンテナンス運営）

所在地 相模原市緑区橋本 6-6-10

八王子キャンパスから約 2km（橋本駅から徒歩 5 分）

構造等 2003 年 3 月竣工、RC 造 6 階建、全 137 室うち 103 室

④奨学金制度及び授業料減免制度による奨学事業に取り組んだ。

【奨学金】

創立 80 周年記念	学内成績最優秀者	30 万円給付
------------	----------	---------

学業成績優秀者	学内成績優秀者	20 万円給付
---------	---------	---------

特別優秀顕彰	学内外の活動等	10 万円給付
--------	---------	---------

研究活動奨励	博士後期課程在学者	40 万円給付
--------	-----------	---------

ワークスタディ	校務一定時間計画従事者	24 万円給付
---------	-------------	---------

交換留学生	本学から海外協定校へ留学	20 万円給付
-------	--------------	---------

大学院学修奨励制度	博士前期・後期課程在学者	10 万円給付
-----------	--------------	---------

【授業料・学費減免】

緊急支援	家計支持者の死亡・後遺障がい等	授業料の 50%減免
------	-----------------	------------

経済的支援	経済的困難者	授業料の 20%減免
-------	--------	------------

兄弟姉妹	正規課程に同時に在籍する場合	授業料の 20%減免
------	----------------	------------

博士前期課程	JASSO 奨学金採用者	授業料の 20%減免
--------	--------------	------------

私費外国人留学生	成績・仕送り額基準あり	(上限) 授業料の 20%減免
----------	-------------	-----------------

上記以外に団体や個人からの寄付金が原資となっている奨学金が複数あった。

上記制度による奨学事業費は総額 2 億円余となり学生支援を一層拡充した。

⑤2020 年度から国が実施する「高等教育無償化の制度」に向けて支援対象機関としての要件整備を進めた。

(3) 国際的な美術家、デザイナー、教育者育成のための環境整備

1. 新たな交換留学実施のための海外協定校拡充

海外へ赴く学生や海外から受け入れる留学生を通じて、本学学生・教職員のグローバル感覚が涵養されることから海外協定校の拡充を進めた。2019 年度の海外協定校数に変更はないが、欧米圏の芸術系大学にコンタクトを取り、2020 年度の協定締結への基盤作りに努めた。

2. 2019 年度交換留学制度（派遣・受入）

交換留学により協定校との連携を深め、双方の交流を図りグローバルな人材育成の一助とした。

- 交換留学生<派遣> 合計 11 大学 13 名
 - 中央美術学院 (中国) 1 名
 - シラパコーン大学 (タイ) 1 名
 - チェルシー・カレッジ・オブ・アーツ (イギリス) 1 名
 - グラスゴー美術学校 (イギリス) 1 名
 - 国立高等装飾美術学校 (フランス) 1 名
 - ベルリン芸術大学 (ドイツ) 3 名
 - ヘリット・リートフェルト・アカデミー (オランダ) 1 名
 - ヨーテボリ大学 (スウェーデン) 1 名
 - アアルト大学 (フィンランド) 1 名
 - ローザンヌ美術大学 (スイス) 1 名
 - ロードアイランド・スクール・オブ・デザイン (アメリカ) 1 名

- 交換留学生<受入> 合計 17 大学 25 名
 - 中央美術学院 (中国) 2 名
 - 国立台北芸術大学 (台湾) 2 名
 - 国立台湾芸術大学 (台湾) 1 名
 - 弘益大学校 (韓国) 2 名
 - ソウル大学校 (韓国) 1 名
 - シラパコーン大学 (タイ) 1 名
 - ナショナル・インスティテュート・オブ・デザイン (インド) 1 名
 - チェルシー・カレッジ・オブ・アーツ (イギリス) 1 名
 - グラスゴー美術学校 (イギリス) 1 名
 - 国立高等装飾美術学校 (フランス) 1 名
 - ベルリン芸術大学 (ドイツ) 4 名
 - ヘリット・リートフェルト・アカデミー (オランダ) 1 名
 - ウィーン応用美術大学 (オーストリア) 1 名
 - ヨーテボリ大学 (スウェーデン) 2 名
 - アアルト大学 (フィンランド) 1 名
 - ロードアイランド・スクール・オブ・デザイン (アメリカ) 2 名
 - シンシナティ大学 (アメリカ) 1 名

3. パシフィック・リム「Pacific Rim」プロジェクト

1981 年度にアートセンター・カレッジ・オブ・デザイン (アメリカ) が実施した研修会に本学学生が参加して以来、29 年間にわたり継続された海外交流を 2006 年度から「Pacific Rim」プロジェクトと呼称し、隔年毎に学生が相互の大学を訪れて環境保護や自然災害など時勢に沿った社会問題等をテーマとして、学生同士が協働して行う学際的協働研究授業を実施してきた。

14 回目となる 2019 年度は 9 月～12 月にアメリカステージが開催され、「Undercover Street Culture」をテーマに実施した。

(4) 国際交流の推進・制度化

1. 海外大学との連携

国や地域のバランスを考えつつ協定校を 25 校へ増加させるための基盤作りに努めた。また、協定校であるオスロ国立芸術大学との協同プログラム「Connecting Wool」およびアアルト大学との共同プログラム「Young Designers Workshop」を実施し、交換留学以外の部分で本学の国際交流に大きく寄与できた。

2. 海外留学の促進

海外協定校との交換留学プログラムに参加する学生に、派遣時期・期間や奨学金など、参加しやすい環境を整え年間 20 名の派遣を目指したが、2019 年度の派遣者数は 13 名であった。

3. 学内の国際化

留学生との交流を活発にするため受入留学生数 500 名を目標に掲げ、2019 年度の留学生数は 525 名となり目標を達成した。

4. 地域のグローバル化対応に貢献

地元中学校との連携促進とともに、地域のグローバル化対応を支援および外国人留学生の地域行事への参加を通じて住民との交流を促進していくため、八王子市立鎌水中学校での授業「国際理解教育」に本学留学生を派遣した。

5. Web サイトにおける情報提供

本学公式 Web ページに、「派遣交換留学体験レポート」と「外国人留学生の進路状況」を掲載した。「国際協同教育プロジェクト Connecting Wool」については、特設ページを開設し、大々的に情報を発信することができた。

(5) 専門性と総合性の融合を目指した教育改革

美術学部は八王子キャンパスに 8 学科 5 専攻 2 コース、上野毛キャンパスに 2 学科 2 コースが設置され、それぞれが高い専門性を持った教育研究を進める一方で、各学科が個別カリキュラムで貫かれておりやや総合性に欠けることが懸念される。

これを補う視点から、本学が目指す専門的職業人や独立した作家の育成に不可欠なプログラムとして、全学年・全学科の学生が履修できる課題解決型の PBL 科目 (Project Based Learning) や企業及び自治体との産学官共同研究、著名な企業人や作家を招く特別講義など全学科対象のオープン科目を導入し、学生が授業を通じて触発し合うことにより、柔軟な考え方や新たな創造を生み出す取り組みを継続的に実施した。

また、共通教育においては総合的な教養に配慮して芸術を目指すものの基盤を重視した科目を配置した。

(6) 教育・研究環境の充実に向けたキャンパス整備

本学の校地及び校舎面積は国が定める大学設置基準を充足しており、上野毛キャンパス

と八王子キャンパスにおいて、それぞれの立地の特性を活かした教育研究活動を行なった。
特に教育研究領域に対応する専門施設に加え、共同施設（図書館、美術館、メディアセンター、アートテーク、セミナーハウス奈良飛鳥寮・山中純林苑、アキバタマビ 21 等）も充実しており所属学科領域外のことに触れて学ぶことができる環境が整備されている。

1. 上野毛キャンパス整備

- ①キャンパスに隣接する道路（都道駒沢通り）拡幅計画にかかる対応を進めた。
- ②上野毛キャンパスの大規模整備計画の策定を進めた。

2. 八王子キャンパス整備

- ①過年度に実施された施設設備の修繕や改修工事履歴に基づく、長期修繕計画を策定し効果的な施設設備の改修工事を実施した。
- ②今後の八王子キャンパス整備にかかる新規プランの検討を行なった。
- ③八王子キャンパス南側遊歩道隣接所有地における学生寮建築計画を推進した。

2019年9月着工～2020年11月竣工予定

【学生寮建築のコンセプト】

- a. 寮長・寮母が24時間常駐し入居者対応
- b. RA（レジデント・アシスタント）制度による入居者ケア
- c. 入居者へ安全・快適な居室とバランス良い食事の提供
- d. 経済的負担の軽減
- e. 多様性あふれる学友との交流を通じた成長
- f. 留学生と共生することで身につく国際化の推進

【学生寮の概要】

RC造 地上5階建 施工床面積7,600 m²

全190室<個室176室、留学生10室、バリアフリー室、管理人室他>

(7) 管理運営の強化

1. 人事管理・労務管理

- ①新規導入の人事システムへの移行を進めた。
- ②人事システムとの連携による勤怠管理システムを導入検討を進めた。
- ③人事・サービス関係規程の課題整理と改善を進めた。
- ④「働き方改革関連法案」にかかる学内規程の改正等の対応を進めた。

2. 人材育成 ー職員の資質・能力向上ー

- ①SD推進による職員力・組織力の強化を進めた。
- ②キャリアプランシートに基づき、人事異動案を作成した。

3. 法改正及び危機管理対応

- ①2015年12月より法制化されたストレスチェックの利用率を向上させた。
- ②2016年1月より施行されたマイナンバー制度について円滑に運用を行なった。

- ③2019年4月から順次施行される働き方改革関連法<労働基準法、労働安全衛生法、雇用対策法、短時間労働者の雇用管理の改善等に関する法律等>への対応を進めた。
- ④災害発生時の地域自治体との協力・連携による安全管理体制の維持に努めた。

4. 財政基盤の強化

- ①2019年10月からの消費税増税に対応すべく財政基盤強化のため、効率的な予算執行と無駄を省く経費削減を進め安定した教育研究資金の確保に努めた。
- ②年間を通じた寄付金募集や積極的な補助金申請・獲得を実行した。
- ③管理経費支出は単年度の特別な要因により前年度実績より増加した。
- ④2040年までの今後20年間に亘る18歳人口減少等の影響を取り込んだ財務シミュレーションを作成し、理事者による経営判断資料とした。

3. 各事務部署の取組み

(1) 教育・研究運営面

◆教務部

【教務課】

- ①教育課程、教育内容、教育方法等の改善に向けた取り組み

2016年度策定の共通教育の新カリキュラムについて着実な履行に努め、1. 教育課程の体系化、2. 授業運営の実質化および改善、3. 単位制度の実質化、4. カリキュラム改革、5. 教育方法の改善 (FD)、6. 厳格な成績評価、7. 多様化する学生への対応、8. 職員の職能開発 (SD)、9. 高大連携 (小中も含む) の推進に継続して取り組んだ。

「シラバス」と「履修案内」の掲載内容の見直しを行った。

昭和大学や早稲田大学との大学間連携を促進した。

- ②大学基準協会大学評価 (2015年度申請) における指摘課題への対応

2019年7月に改善報告書を提出した。

《教員・教員組織》

- ・昇格及び大学院指導資格の基準を明示した。
- ・授業改善の他、教員の資質向上のためのFD活動を実施した。

《教育内容・方法・成果》

- ・美術研究科の教育課程編成や実施方針は課程ごとに定めた。
- ・美術学部の教育課程の編成、実施方針はWebサイトにより広く公表した。

《内部質保証》

- ・自己点検・評価を定期的実施した。
- ・内部質保証についての恒常的な組織体制を機能させた。

- ③三つのポリシーに基づくPDCAサイクルの推進

全学的な自己点検・評価活動を行い、PDCAサイクルを機能させるため、「ワーキンググループ会議」や「プロジェクト・チーム」を組織して集中して検討を行い、改善・改革案を学内・改革申請本部に答申することによって、内部質保証についての恒常的な組織体制を構築した。

- ④教職課程の再課程申請に伴う 2019 年度からの新課程に向けた準備と着実な履行
教員免許法改正に伴う教職課程の美術免許に係る再課程申請は、文部科学省に認定された。2019 年度から新たな教員配置、時間割の整備、履修の手引きの改訂などを行い、再課程申請にもとづく、新課程を着実に履行した。

【入試課】

- ①一般、推薦、特別、大学院入学試験の Web 出願・合否システムの検証と改善
システムの変更と検証については現状の入試システムに反映させ特に問題なく運営することができた。
- ②外国人留学生の対応
外国人の出願資格における日本語の検定試験における一定のスコア・レベルの到達だが、グラフィックデザインの特別入試の二次試験と併せてスムーズに試すことができた。
各入試種別で外国籍の出願が関係するものに出願用所定用紙としてチェックリストを課したことで書類不備や誤記の減少に貢献した。
- ③研究生選考の見直し、制度の確認
「研究」に特化する者を募集要項で定義し案内することができた。
- ④大学入学共通テスト（新テスト）導入、高大接続改革
適切なタイミングで受験生に案内することができた。

【国際交流センター】

- ①海外協定校の拡充及び海外大学との交流促進（共同授業・ワークショップ）
テキスタイルデザイン専攻が、アアルト大学との共同ワークショップを本学、アアルト大学の両大学で開催した。
版画専攻が、カリフォルニア大学サンタクルーズ校とワークショップを実施した。
- ②国際協働教育プロジェクト「Pacific Rim 14」（アメリカステージ）実施
上野毛キャンパスの学生が初めてプロジェクトに参加することで、学内の国際化が進んだ。
- ③国際交流プロジェクト「Connecting Wool」（協同ワークショップ・ワークプレースメント）実施
オスロ国立芸術大学（ノルウェー）との国際交流プロジェクト「Connecting Wool」の一環として、2名の学生派遣を実施した。
- ④国際交流に係る外部資金の獲得・活用（事業経費軽減のため外部補助金獲得）
2020 年度開催予定の「アアルト大学との合同展示」のための助成金を、スカンジナビア・ニッポン ササカワ財団から再獲得した。
トビタテ留学 JAPAN の奨学金を獲得して 2名の学生が交換留学で派遣された。
JASSO2019 年度海外留学支援制度（協定派遣）申請プログラムに Pacific Rim Project が採択され、学生 8 名に奨学金が給付された。
- ⑤外国人留学生在籍管理（在留資格の期限管理、在留カード[写]保管、出席不足・成績不良学生へのケア）
5 月 1 日時点での在留カードの写しを全学生分保管できた。

研究室が実施する毎月の在籍管理において、連絡が取れない学生に対して、連絡するとともに、出席状況が悪い学生については、呼び出しを行う等で指導した。

⑥本学 Web サイトにおける情報提供（基本情報英語版、交流イベント発信）

学部、大学院の3つのポリシー英語版を掲載した。

派遣交換留学生の体験レポートをwebに掲載した。

「卒業生と進路」のwebに「外国人留学生の進路状況」を追加した。

【研究支援課】

①研究費に関するルール・事例集の整備

外部資金による研究費使用事例集を更新した。

科研費学内ルール改訂版を作成した。

外部資金に係る運用基準・ルールの見直しを行なった。

個人研究費(新任者・研究室)/共同研究費(経理担当者)の説明会を実施した。

学内サイト等を通じ、運用規定・ルールの周知徹底を促進した。

②公的研究費の管理・監査のガイドラインに基づく体制整備の促進

学生への研究倫理教育・非常勤講師への研究倫理教育を行なった。

検収体制を整備した。

研究推進会議を定例化した。

コンプライアンス研修会、研究倫理研修会を開催した。

③学内研究活動の活性化と情報公開促進

研究成果の発信を強化した。

産学共同研究が受託件数・金額とも増加した。

研究紀要を発行した。

◆学生部

【学生課】

①奨学金等に関する見直し

日本学生支援機構奨学金の対応を適切に行った。

本学奨学金・減免制度の見直しを検討し、2020年度に向けて整備した。

高等教育の負担軽減（無償）化への対応を確実に行った。

②学生満足度の向上

2018年度意見箱の取りまとめを行った。

学生の住環境に配慮し、アパート委託業者との協力を図った。

新設する寮へのサポートを行った。

③学生支援及び支援業務に関する見直し

学生支援委員会にて概ね新たな支援方針をまとめ上げた。

各学生支援策をPDCAサイクルにより検証を行い、2020年度実施を概ね継続するに至った。

受動喫煙防止対策を関係部署と連携して実施を行った。

④多様化する学生に対する支援

障がいをもつ学生の情報共有と対応を行うと共に、学内で講演研修を行いFDに役立てた。

欠席過多等ケアを必要とする学生への研究室連携を図り、早期発見と支援を等による早期発見と支援を行った。

退学者の状況分析を行ない、学内で問題点の情報共有を図った。

学生相談室について専任カウンセラーを中心に研究室連携を図った。

⑤上野毛キャンパス学生への課外活動等支援

上野毛キャンパスの学生と懇談会（年2回）を実施し、課外活動に関するニーズを把握した。

地域と連携をして、ボランティア活動やコラボレーション情報の提供を行った。

【キャリアセンター】

①進路・就職支援対策の推進強化

年度末の就職内定率（就職者／就職希望者）は85.4%だった。

②低学年からの進路・就職に対する意識向上

OB/OG講演会、ワークショップを実施し、学内説明会の対象を広げたため、低学年（2年生・1年生）の就職意識向上に繋げることができた。

③教職員の連携強化

各学科毎に定期的な情報交換、対策を実施し、就職担当の助手・副手との連携を強化した。

④留学生及び配慮を要する学生への進路・就職支援

国際交流センターと連携し、外国人留学生を対象としたガイダンスを6月に実施した。配慮を要する学生に対して2ヵ月に一度のケース会議、課内での情報共有を行なった。

⑤ガイダンス・学内企業説明会参加率の向上

ハガキ送付によるガイダンス告知を行ったため、前年度よりもガイダンスや講座参加者が増加した。

ガイダンス内容に関しても変更し、充実を図れた。

◆附属図書館

①「学生のための図書館」サービスの充実と学内利用者の満足度向上

学生のニーズを捉え、各館の特色を生かした蔵書の構築を行った。

家具の補修、改善も順調に進み、図書館の蔵書を利用した展示を通年で展開した。

②大学からの情報発信への貢献

コレクションの収集・整理・展示まで順調に行った。

③他部署との連携

大学史資料やアーカイブ資料の構築など他部署との連携・協力を行った。

④開かれた図書館を目指して

ウェブサイトからの情報発信と情報公開を強化した。

日本語版見学者用パンフレットを作成し、見学者受入方法の手続きを簡便化した。

⑤運営・管理のレベルアップ

図書館システムの業務端末の入替が終了した。
一部資料を外部倉庫へ預け、八王子書庫の狭隘化対策を行った。
八王子キャンパス、上野毛キャンパス両館の業務レベル・方法を統一化した。

◆附属美術館

- ①4本の展覧会を開催した。
 - 「藪野 健 時空散歩 江戸東京、そして東北」：入館者数：2,452名
 - 「古布の世界－坂田和實蒐集の粹－」：入館者数：1,685名
 - 「エターナル・アフリカ＊森と都市と革命－アミルカル・カブラルの革命思想とジョージ・リランガの芸術－」：入館者数：3,255名
 - 「TAMABI METAL WORKS－野口裕史と教え子たち－」：入館者数：1,329名
- ②博物館実習生を34名（学内29名、学外5名）受入れた。
- ③受変電設備、防火シャッター等の更新を行なった。

◆附属メディアセンター

- ①研究センター
 - 東京国際ミニプリントトリエンナーレ1995-2018データベースの作製を支援した。
- ②情報センター
 - ネットワーク機器の更新を行なった。
 - 上野毛キャンパス無線LANサービス設置を行なった。
 - コンピュータスタジオ内パソコンの入替えを行なった。
- ③映像センター
 - 施設利用学生の制作意欲を刺激するよう機材構成の充実を図った。
 - 学生のクリエイターとしてのキャリア構築をサポートした。
 - 3DCG機器とソフトを更新し授業内外の対応を強化した。
- ④写真センター
 - 暗室・撮影スタジオ施設、写真機材の有効活用を推進した。
 - 写真制作に必要な知識・技術向上の講習会を開催した。
 - 貸出機材を更新した。
 - デジタルプリント制作の支援を行なった。
- ⑤工作センター
 - 各研究室と施設利用時間の調整及び連携を図り学生の安全確保に努めた。
 - 危険性の高い工作機械については予約制とし、工作センタースタッフ立ち合いのもと使用させるなど安全第一の運営を心掛けた。
 - 3D切削機の稼働を高めるため制作サンプルや講習会を充実させた。
- ⑥CMTEL
 - 素材、資料、トレンド資料の収集、既存展示品、参考作品の更新・追加を行った。
 - 学生の制作活動に対する実践的サポートを実施した。
 - オープンキャンパスでのイベントの実施や学校見学者へ向けたワークショップを開催した。

学生向け CMTEL 見学ツアーを開催した。

⑦上野毛スタジオ

貸出し機材を整備した。

写真、撮影、録音、映像の各スタジオ利用や制作について講習会を開催した。

⑧事務室

Adobe CC のセミナー、モデリングソフトのワークショップを実施した。

利用状況の改善についての方策を作成し、「studio FabCave」の設立が決まった。

◆附属アートアーカイブセンター

1. 附属アートアーカイブセンターの運営体制構築

アートアーカイブ研究所設置のための内規案を作成した。

教育研究において学内外で貢献することができる仕組みづくりを検討し、アドバイザーボードの設置等を行った。

2. 事業推進に向けた取り組み

①各アーカイブ資料の保管と管理及び整理

各資料代表者とのミーティングを通して、各資料の整理や研究活動の現状を把握した。
横山操資料をリスト化した。

瀧口修造文庫の資料公開の目処を立てることができた。

②アートアーカイブセンターの情報発信

紀要 0 号、紀要 1 号を発行した。

オリジナルサイトの公開を行なった。

学内サイトを随時更新し、学内教職員の利用率向上に努めた。

③本学ブランディング事業としての推進

第 2 回シンポジウムを開催した。

「アートアーカイブの現状」「写真アーカイブのこれから」「言語と美術のアーカイブ化」という 3 つの方向からアートアーカイブの可能性を展開した。

◆生涯学習センター

①本学の持つ潜在的な力・リソースを掘り起こし、社会へアピールする場としての生涯学習事業の企画立案

・教員情報をリスト化・共有し、新たな教員の参加に繋げた。

・上野毛キャンパスでの演劇舞踊デザイン学科教員による企画を実現した。

②上野毛・八王子キャンパスそれぞれの特色を生かした旗艦講座の検討

・連続講演『世界の美術館』は、八王子キャンパスで初の大規模講座として実施した。

・八王子キャンパスの総講座申込数は前年比 320%となった。

・新規シリーズ『〇〇世紀の芸術家列伝』は、前シリーズよりも本学教員の割合を増やし、多摩美らしい講座とすることができた。

③Web 広報の強化及び他の広報媒体との有機的関連付けによる活動の周知と事業の更なる活性化

・WEB 申込の導入と効果的な広報により、申込者数が前年比 123%に増加した。

- ・QRコード等の工夫で、紙面媒体とWEBをリンクすることができ、年配の受講者へもWEB申込の敷居を低くするなど、事務業務の省力化にも努めた。

◆芸術人類学研究所

1. 研究プロジェクトと連動した大学内外における連携活動の推進と教育活動

「第7回『土地と力』シンポジウムー時間と空間の交点 芸術人類学のめざすもの」、ユーロ=アジアの諸民族の装飾芸術を「生命デザイン」の観点から展示した「渦巻の大宇宙ーユーロ=アジア文明をつらぬく生命デザイン」などを通じて、研究成果を報告した。

「土地と力」シンポジウムでは人間の認識にとって重要な「時間」と「空間」をテーマに、その発生とそこに現れる様々な物語やイメージ、そして表現の可能性について討議を行った。

「渦巻の大宇宙」展では、15日間の会期中に学内外から約3,600名におよぶ来場者を記録するとともに、開催運営のサポーター活動において本学学生の積極的な参加もあり、本展での経験が学生にとって新たな関心や意欲にもつながる機会となった。

2. 研究会・プロジェクトの推進とプロジェクト間の連携

「土地と力」プロジェクト、ならびに研究5部門（ユーロ=アジアをつらぬく美の文明史、野外をゆく詩学、纏れのデザイン、贈与と祝祭の哲学、来たるべき美術）を相互に連携させ、研究会やシンポジウムを開催した。

従来では人類学の一角に限定されてきた芸術の歴史・思想による創造性を「人類史のスパン」から再考し、それらの成果は研究所紀要『Art Anthropology』第15号として学内外に発信した。

2. 管理運営面

◆総合企画部

【企画課】

- ①法人運営に関する市場調査ならびに諸統計などの収集・分析
 - ・高校、予備校のマーケットの分析を行なった。
 - ・2021年度入試改革の情報収集と分析について、入試改革に向けた一般大受験生の意識変化を調査した。
- ②法人運営に関する企画と提案
 - ・2020年度入試及び2021年度入試についての提案を行なった。
 - ・企業や大学、地域との連携を推進した。

【広報課】

- ①学生募集に関する企画と提案
 - ・志願者の分析を行ない前年比アップのための施策を提案した。
- ②広報メディアのクオリティアップ
 - ・大学案内の内容を受験生向けに強化した。
 - ・広報誌「TAMABI NEWS」の編集内容を強化した。
 - ・志願者獲得メディアに関して、高校教員とのコンタクト機会を獲得しつつ、「AI時代

に勝ち残るための進路選択」をベースとしたコミュニケーションを展開した。

- ・部署で管理しているサイトアクセス統計は前年比でユーザー数が約18%増となった。
- ・留学生に向けて、外国語サイトの見直しでJPSSを利用した展開をスタートさせた。

③大学広報

- ・大学ブランド価値向上に向けた取り組みプランの作成と提案を行なった。
- ・受験生に向けた広報プランの作成と提案を行なった。
- ・パブリシティ獲得に向け情報発信を強化した。

④公的機関・社会連携強化

- ・全国高等学校美術工芸研究大会、全国高等学校文化連盟、全国美術高等学校協議会、全国高等学校演劇協議会、大学コンソーシアム八王子、相模原・町田大学地域コンソーシアムなどとの連携協働を通じて様々な組織や地域と芸術文化の振興、事業展開により芸術実践活動を推進した。

◆総務部

【総務課】

1. 法人運営環境の整備

- ①役員変更に伴う各種届出を行なった。
- ②新たに事務局長、学長補佐を設け、実施サポート体制を強化した。
- ③新体制に必要な規程を整備した。
- ④電子稟議・決済システムの導入に向けた検討を進めた。
- ⑤労務環境の整備
 - ・働き方改革の趣旨に鑑みて就業規則等の改正にあたっては、ワークライフバランスの推進に向け、個々の事情に応じた多様で柔軟な働き方を自分で選択できるよう対応を行なった。
 - ・同一労働同一賃金に対応するため、正規、非正規による不合理な待遇差については是正を行なった。
 - ・職員勤怠システムの導入に向け、業者選定を終えた。(次年度導入)

⑥人材活用

- ・新卒及び中途採用ともに必要十分な採用人数には至らなかった。
- ・研修制度を体系化し、新たに四美大合同の若手研修を実施するなど充実を図った。

2. 上野毛キャンパス

①上野毛キャンパス整備計画の始動

- ・駒沢通り拡幅にかかる世田谷区との折衝を進めている。
- ・上野毛キャンパス整備に係る実施設計策定に向けたサポートを行なっている。

【八王子総務課】

3. 八王子キャンパス

①八王子キャンパス整備計画

- ・キャンパス南側隣接地への学生寮新築工事を着工した。
- ・GHP・EHP 空調更新工事を行なった。

- ・校内各所トイレ洋式化へ改修を進めた。
- ・次年度建物修繕計画を策定した。

4. 管理運営計画

- ①各建物の長期修繕計画（年数別修繕計画、改修履歴データ化）の策定を進めている。
- ②災害備蓄品を更新した。

【経理課】

- ①所得税・法定調書提出等の e-Tax、eLTAX を使用したシステム化を完了した。
- ②資産運用について、運用基準の見直しにより、より広範かつリスクの少ない債券購入により運用益を増加させた。
- ③寄付金収入の拡充により、総額が増加した。
- ④財務シミュレーションと資金計画の策定については、上野毛キャンパス整備計画を主とした全体計画の規模が検討段階であるため、精度の高いシミュレーションはできなかつたが、将来の収支増減をシミュレーションすることにより、複数のシナリオを作成した。
- ⑤クラウドファンディング導入によるメリット・デメリットを検討した。

【情報推進課】

- ①既存業務システムの構成図を明確にし、現状把握を行った。
- ②CampusSquare について、不具合カスタマイズを推進した。
- ③出席管理システムの取り換え更新を行った。
- ④CampusSquare のクラウドバックアップ体制について、プロジェクトの設計と導入への環境を構築した。

Ⅲ. 平成31年度 予算執行状況および財務状況

当期の予算執行および財務状況について、概要を報告します。

(会計についての詳細はホームページの「多摩美術大学について」→「会計・事業報告」をご参照ください)

1. 資金収支計算

資金収支計算について、その主な内容を報告します。
なお、金額は千円未満を四捨五入して表示しています。

【資金収支計算総括表】

(収入の部)		(単位:千円)		
科目	予算	決算	差異	
学生生徒等納付金収入	7,754,257	7,793,995	△39,738	
手数料収入	201,850	205,954	△4,104	
寄付金収入	1,850	8,072	△6,222	
補助金収入	501,100	505,974	△4,874	
資産売却収入	400,000	400,000	0	
付随事業・収益事業収入	29,050	39,997	△10,947	
受取利息・配当金収入	48,000	70,311	△22,311	
雑収入	126,000	181,998	△55,998	
借入金等収入	0	0	0	
前受金収入	3,403,430	3,909,833	△506,403	
その他の収入	415,156	423,518	△8,362	
資金収入調整勘定	△4,005,611	△4,028,998	23,387	
当年度資金収入合計(A)	8,875,082	9,510,654	△635,572	
前年度繰越支払資金	15,557,281	15,557,281	0	
収入の部合計	24,432,363	25,067,935	△635,572	

大学院の定員充足等により予算額を上回りました。

多摩美サポーター募金による恒常的な募集で予算額を上回りました。

私立大学経常費補助金5億484万円、うち特別補助4,969万円(国際交流の基盤整備1,327万円、大学院等の機能高度化1,560万円、授業料減免及び学生の経済的支援2,082万円)の交付がありました。前年度より特別補助額は減少し、一般補助額も学校配点が下がり減少しました。

利付国庫債券1億円、財投機関債券3億円の有価証券満期償還額です。

生涯学習講座による公開講座収入や教員免許更新講習料収入は減少しましたが、受託研究収入が増加し、予算額を上回りました。

長期金利は低水準が継続していますが、銀行の定期預金から債券の新規購入による資産運用額を増額し、運用利回りを高めたことにより予算額を上回りました。

(支出の部)				
科目	予算	決算	差異	
人件費支出	4,105,927	3,932,495	173,432	
教育研究経費支出	2,127,050	1,947,786	179,264	
管理経費支出	569,550	519,402	50,148	
借入金等利息支出	0	0	0	
借入金等返済支出	0	0	0	
施設関係支出	1,936,600	1,724,186	212,414	
設備関係支出	498,850	351,034	147,816	
資産運用支出	1,542,400	1,442,017	100,383	
その他の支出	315,975	315,934	41	
予備費	360,800	—	360,800	
資金支出調整勘定	△406,847	△426,770	19,923	
当年度資金支出合計(B)	11,050,305	9,806,084	1,244,221	
翌年度繰越支払資金	13,382,058	15,261,851	△1,879,793	
支出の部合計	24,432,363	25,067,935	△635,572	

人件費全体が抑えられたことにより、予算額を下回りました。

消耗品費、旅費交通費、修繕費、営繕費、学生管理費、業務委託費等が昨年度決算額よりも増加しましたが、光熱水費や印刷費、賃借料等の減少もあり全体としては予算額を下回りました。

八王子キャンパス…デザイン棟・共通教育棟等のトイレ改修、絵画北棟1階版画実習室改修、工芸棟ガラス溶解炉の改修、メディアセンターB1階・3階GHP空調機更新、図書館「透明梁」設置、メディアセンター1階メディアホール・コンサートボックス増設工事等。
上野毛キャンパス…演劇スタジオ舞台吊物設備昇降バトンケーブル工事。
山中セミナーハウス…業務用無線LAN設置工事。

減価償却引当特定資産を10億円増額(合計93億円)しました。多摩美サポーター募金により第3号基本金引当特定資産を増額しました。有価証券を新規に購入しました。

上記により次年度繰越支払資金が予算対比では増加、前年度決算額対比では△2億9,543万円減少しました。

当年度資金収支差額(A)-(B)	△2,175,223	△295,430	△1,879,793
------------------	------------	----------	------------

2. 事業活動収支計算

事業活動収支計算について、その主な内容を報告します。

【事業活動収支計算総括表】

(単位:千円)

科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金	7,754,257	7,793,995	△39,738
手数料	201,850	205,954	△4,104
寄付金	1,550	8,168	△6,618
経常費等補助金	501,100	505,974	△4,874
付随事業収入	29,050	39,997	△10,947
雑収入	126,000	181,998	△55,998
教育活動収入計	8,613,807	8,736,086	△122,279
人件費	4,155,827	3,962,212	193,615
教育研究経費	3,407,050	3,154,274	252,776
(うち減価償却額)	1,280,000	1,205,878	74,122
管理経費	603,550	549,900	53,650
(うち減価償却額)	84,000	74,496	9,504
徴収不能額	0	0	0
教育活動支出計	8,166,427	7,666,386	500,041
教育活動収支差額	447,380	1,069,700	△622,320
科目	予算	決算	差異
受取利息・配当金	48,000	70,311	△22,311
その他の教育活動外収入	0	0	0
教育活動外収入計	48,000	70,311	△22,311
借入金等利息	0	0	0
その他の教育活動外支出	0	0	0
教育活動外支出計	0	0	0
教育活動外収支差額	48,000	70,311	△22,311
経常収支差額	495,380	1,140,011	△644,631
科目	予算	決算	差異
資産売却差額	216	216	0
その他の特別収入	10,300	27,053	△16,753
特別収入計	10,516	27,269	△16,753
資産処分差額	7,800	5,798	2,002
その他の特別支出	50,000	43,998	6,002
特別支出計	57,800	49,796	8,004
特別収支差額	△47,284	△22,527	△24,757
予備費	368,850	368,850	0
基本金組入前当年度収支差額比率(注1)	0.9%	12.7%	—
基本金組入前当年度収支差額	79,246	1,117,484	△1,038,238
基本金組入額合計	△1,976,939	△1,641,841	△335,098
当年度収支差額	△1,897,693	△524,357	△1,373,336
前年度繰越収支差額	△2,085,213	△2,085,213	0
基本金取崩額	0	0	0
翌年度繰越収支差額	△3,982,906	△2,609,570	△1,373,336
事業活動収入計	8,672,323	8,833,666	△161,343
事業活動支出計	8,593,077	7,716,182	876,895

退職金財団からの交付金、科学研究費補助金間接経費等により予算を上回りました。

退職給与引当金は前年度実績より減少し、所定福利費は増加しましたが、全体的に減少したことにより、人件費は予算を下回りました。

前年度実績比では、消耗品、営繕費等が増加しましたが、減価償却額等の減少により、全体額は予算を下回りました。

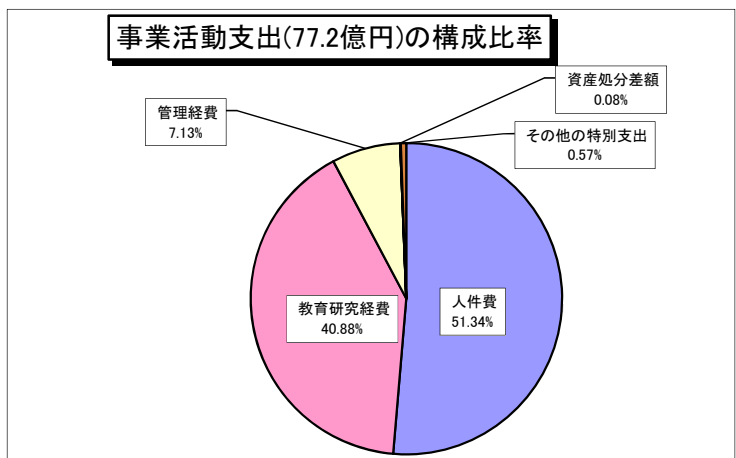
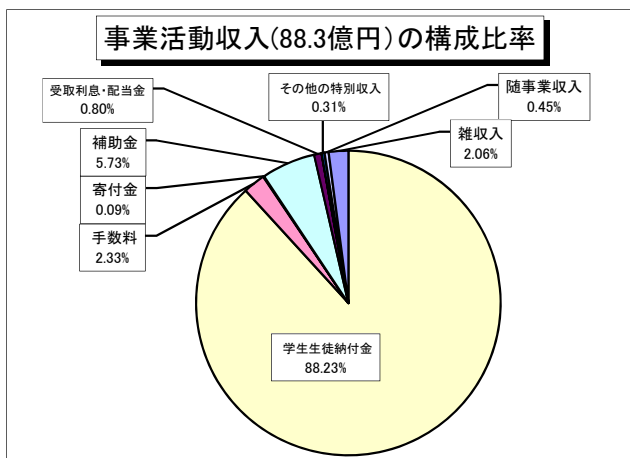
額面以下の価格で購入し運用していた債券(利付国債、財投機関債)の満期償還による額面と購入額の差額です。

個人から美術参考品56点、1,012万円、科学研究費補助金から購入された教育研究用機器備品7点、133万円相当額の寄贈や施設設備に対する寄付金等がありました。

図書の汚損・紛失・除籍による処分差額です。

上記の結果、事業活動収入は88億3,366万円となり予算を上回りました。また、基本金組入前当年度収支差額比率は12.7%になりました。これは今後の継続的な施設整備計画の資金に充当されます。当年度の収支差額は△5億2,435万円となり翌年度繰越収支差額は△26億957万円となりました。この繰越収支差額は、将来計画にかかる基本金の先行組入れ(70億円)や借入金に頼らない施設設備充実の結果生じた基本金組入れによるもので、長期的な改善を計り、今後も事業活動収支の均衡がとれた運営を目指します。

注1 基本金組入前当年度収支差額比率=基本金組入前当年度収支差額÷事業活動収入計×100



3. 貸借対照表

貸借対照表について前年度からの増減と5カ年推移を報告します。
(資産の部) (単位:千円)

科目		H31年度末	H30年度末	増減
資産	固定資産	57,021,808	55,273,964	1,747,844
	有形固定資産	35,794,484	34,975,920	818,564
	特定資産	18,750,763	17,726,921	1,023,842
	その他の固定資産	2,476,561	2,571,123	△94,562
	流動資産	15,474,734	15,917,433	△442,699
合計		72,496,542	71,191,397	1,305,145

建物… デザイン棟・共通教育棟等のトイレ改修、版画実習室改修、工芸棟ガラス溶解炉改修、図書館「透明梁」設置、スタジオ舞台吊物設備昇降ハットケーブル工事、業務用無線LAN設置工事他。
教育研究用機器備品… iMac、硝子溶解炉、3Dプリンター、移動型調光器他。
美術参考品… 寺田コレクション56点、野口裕史金属工芸作品3点、長谷川路可油画作品1点他。
その他… 図書、構築物、管理用機器備品、美術参考資料、建設仮定の取得。

(負債の部・純資産の部)

科目		H31年度末	H30年度末	増減
負債	固定負債	1,978,841	1,949,124	29,717
	流動負債	4,577,271	4,419,327	157,944
	合計	6,556,112	6,368,451	187,661
純資産	基本金	68,549,999	66,908,159	1,641,840
	第1号基本金	60,675,362	59,035,922	1,639,440
	第2号基本金	7,019,624	7,019,624	0
	第3号基本金	375,013	372,613	2,400
	第4号基本金	480,000	480,000	0
	繰越収支差額	△2,609,569	△2,085,213	△524,356
合計		65,940,430	64,822,946	1,117,484
負債および純資産の部合計		72,496,542	71,191,397	1,305,145

「第3号基本金引当特定資産」は寄付による基本金増より240万円の増加。「減価償却引当特定資産」残高は10億円増額し93億円。「退職給与引当特定資産」残高は退職給与引当金が増加したことから2,971万円増の19億7,884万円。多摩美術大学創立80周年記念奨学金基金引当特定資産残高は奨学金給付による取崩し990万円と寄付金及び利付国庫債券による運用益162万円との差額828万円の減少。保有の有価証券は、引当特定資産分を含め49.3億円(R2/3月末現在の取得価額に対する評価はプラス1億3,523万円)で昨年度比4億円の増加。

(参考)

減価償却額の累計額	24,958,867	24,038,755	920,112
基本金未組入額	135,690	39,431	96,259

現金預金残高は前年比2億9,543万円減少し152億6,185万円、退職金財団交付金等の未収入金が1億5,648万円減少し1億4,640万円、前払金は907万円増加し6,592万円。

長期借入金残高は平成30年度から0円となり、退職給与引当金残高は312名分で2,972万円増の19億7,884万円。

貸借対照表についてH29年度～H27年度を報告します。

(資産の部) (単位:千円)

科目		H29年度末	H28年度末	H27年度末
資産	固定資産	55,200,679	55,090,052	54,871,486
	有形固定資産	35,928,236	36,826,709	36,362,223
	特定資産	16,763,874	15,761,704	16,111,704
	その他の固定資産	2,508,569	2,501,639	2,397,559
	流動資産	14,818,478	13,749,582	12,822,424
合計		70,019,157	68,839,634	67,693,910

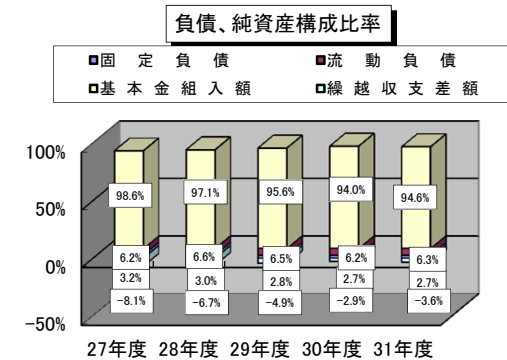
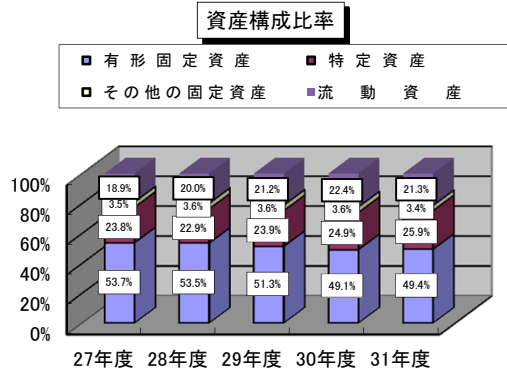
(負債の部・純資産の部)

科目		H29年度末	H28年度末	H27年度末
負債	固定負債	1,979,570	2,092,923	2,185,080
	流動負債	4,531,487	4,526,094	4,197,626
	計	6,511,057	6,619,017	6,382,706
純資産	基本金	66,907,626	66,843,253	66,763,605
	第1号基本金	59,035,922	59,001,549	57,521,901
	第2号基本金	7,019,624	7,019,624	8,419,624
	第3号基本金	372,080	342,080	342,080
	第4号基本金	480,000	480,000	480,000
	繰越収支差額	△3,399,526	△4,622,636	△5,452,401
合計		63,508,100	62,220,617	61,311,204
負債および純資産の部合計		70,019,157	68,839,634	67,693,910

(参考)

減価償却額の累計額	22,929,312	22,202,910	21,215,898
基本金未組入額	0	34,373	58,493

第1号基本金＝平成31年度の組入額(資産取得)21億175万円と前年度未組入れ高の組入れ分3,943万円の合計から当年度除却資産分の基本金組入額3億6,606万円と未払金による未組入れ分1億3,568万円を除いた16億3,944万円を組入れました。



4. 財務比率<平成27年度から平成31年度>

※芸術系(21法人)平均値は、日本私立学校振興・共済事業団編【今日の私学財政】平成31年度版より算出しました。

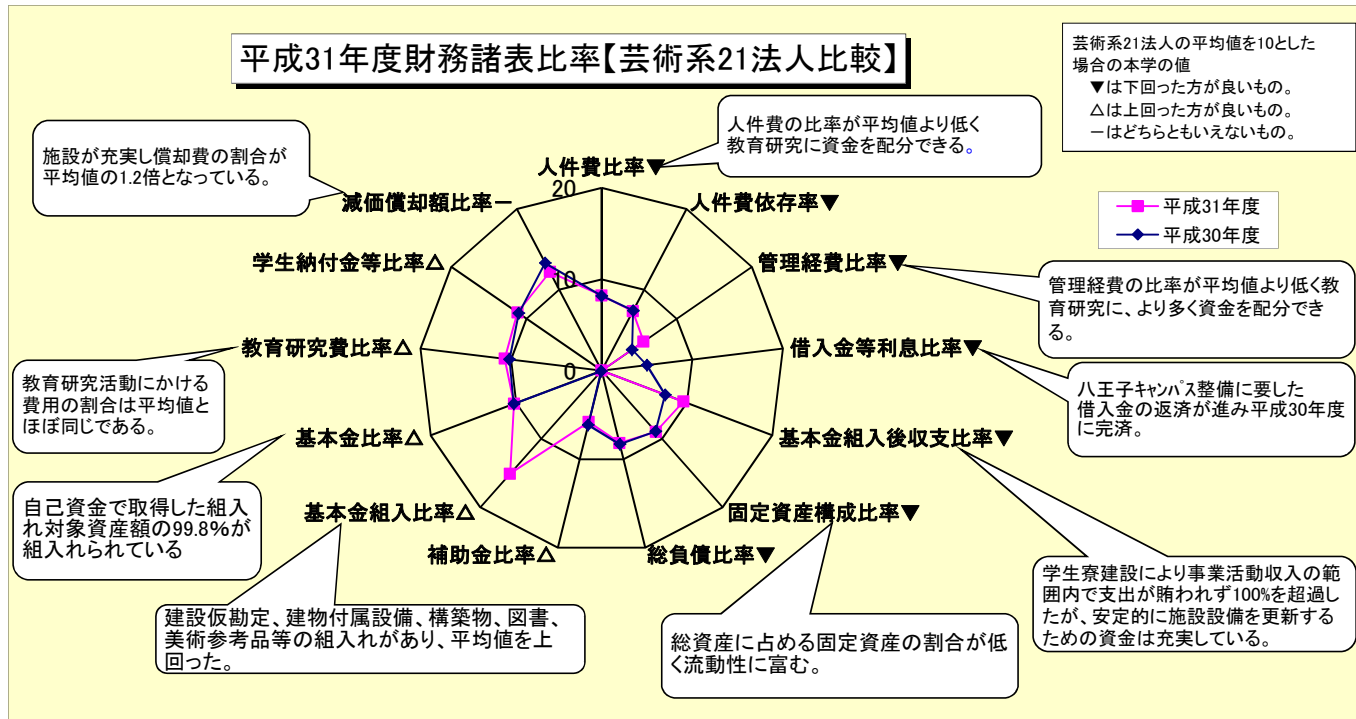
項目	算式	評価	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	芸術系平均値
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	▼	45.6%	47.7%	44.5%	45.7%	45.0%	54.7%
人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生納付金}}$	▼	53.3%	55.7%	51.2%	52.9%	50.8%	69.1%
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	▼	5.1%	4.4%	4.6%	4.7%	6.2%	11.1%
借入金等利息比率	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{経常収入}}$	▼	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.0%	0.1%
基本金組入後収支比率	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入-基本金組入額}}$	▼	106.1%	90.5%	86.0%	85.2%	107.3%	112.0%
固定資産構成比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$	▼	81.1%	80.0%	78.8%	77.6%	78.7%	87.8%
総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	▼	9.4%	9.6%	9.3%	8.9%	9.0%	11.0%
補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	△	7.8%	7.4%	6.7%	6.2%	5.7%	9.8%
基本金組入比率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{事業活動収入}}$	△	18.3%	0.9%	0.7%	0.1%	18.6%	12.3%
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	△	100.0%	99.9%	100.0%	100.0%	99.8%	97.3%
教育研究費経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	△	36.5%	37.2%	36.6%	34.7%	35.8%	33.5%
学生納付金等比率	$\frac{\text{学生納付金}}{\text{経常収入}}$	△	86.2%	85.7%	86.9%	86.4%	88.5%	79.1%
減価償却額比率	$\frac{\text{減価償却額}}{\text{経常支出}}$	-	18.9%	18.8%	19.2%	17.7%	16.7%	13.7%

*「経常収入」=教育活動収入計+教育活動外収入計 「経常支出」=教育活動支出計+教育活動外支出計 「運用資産」=現金預金+特定資産+有価証券

【比率分析の見方】

- 人件費比率=経常収入に対する人件費割合を示す重要な比率で低い方が望ましい。
- 人件費依存率=学生納付金に対する人件費割合で一般的には低い方が望ましい。
- 管理経費比率=経常収入に対する管理費用の割合で低い方が良い。本学では特に節減に力を入れている。
- 借入金等利息比率=低い方が良い。本学は平成30年度に完済となり、借入金は無い。
- 基本金組入後収支比率=「事業活動収入-基本金組入額」に対する事業活動支出の割合で低い方が良い。100%を超えると支出超過。
- 固定資産構成比率=総資産に占める固定資産の割合で低い方が良い。比率が特に高い場合は流動性に欠ける評価。
- 総負債比率=低い方が良い。総資産に対する他人資金の割合、50%を超えると負債総額が自己資金を上回る。
- 補助金比率=高い方が良い。私立大学等経常費補助金や競争的資金等の積極的な獲得のための取り組みが必要。
- 基本金組入比率=資産の充実のためには高い方が良いとされる。
- 基本金比率=基本金組入対象(教育研究用)資産の自己資金取得による割合で高い方が良い。
- 教育研究費経費比率=経常収入に対する教育研究活動費用の割合で高い方が良い。
- 学生納付金等比率=経常収入の中で最もウェイトが高く安定推移が良い。学費のみに依存しない体制作りが重要。
- 減価償却額比率=将来、資産の更新時に必要である。実質的には消費されずに留保される資金。

平成31年度財務諸表比率【芸術系21法人比較】



【まとめ】

平成31年度末における本学の財政状況は、学費収入を柱とした安定した収入と、適正な予算配分と管理による支出を徹底することで、しっかりとした経営基盤を維持しています。この良好な状態は各財務比率でも示されています。本学は継続的な人件費支出の圧縮や管理経費支出の節減等により、新規の施設設備整備計画に当てるための資金ストックや毎年度の収支差額に不足はなく、今後も安定的な教育運営資金が確保されています。

財 産 目 録

令和2年 3月31日

I 資産総額		72,496,541,770 円	
内 基本財産		35,852,185,077 円	
運用財産		36,644,356,693 円	
II 負債総額		6,556,112,229 円	
III 正味財産		65,940,429,541 円	

科 目		金 額	
資 産			
一 基本財産		(35,852,185,077 円)	
1 土地 (団地)		198,947.99 m ²	14,275,478,964 円
内 訳	(1) 上野毛キャンパス校地	16,118.66 m ²	10,600,000 円
	(2) 八王子校キャンパス校地	164,540.73 m ²	13,258,386,964 円
	(3) 美術館敷地 (校地)	1,603.00 m ²	920,000,000 円
	(4) 山中純林苑敷地	11,929.00 m ²	80,620,000 円
	(5) 奈良飛鳥寮敷地	1,469.60 m ²	5,172,000 円
	(6) 野尻湖敷地	3,287.00 m ²	700,000 円
2 建 物		110,808.97 m ²	14,061,673,774 円
内 訳	(1) 校 舎	96,309.83 m ²	11,356,708,769 円
	(2) 図 書 館	6,738.99 m ²	1,299,889,039 円
	(3) 講堂・体育館	3,895.29 m ²	416,576,373 円
	(4) 学生会館	2,073.99 m ²	310,526,554 円
	(5) そ の 他	1,790.87 m ²	677,973,039 円
3 構 築 物		357 件	1,931,813,458 円
4 教育研究用機器備品		11,359 点	1,076,423,675 円
5 管理用機器備品		467 点	39,410,297 円
6 図 書		220,909 冊	1,452,539,426 円
7 美術参考品		7,819 点	1,352,758,490 円
8 美術参考資料		368 種	64,231,357 円
9 車 両		9 台	3,570,231 円
10 建設仮勘定		3 件	1,536,584,000 円
11 ソフトウェア		7 件	55,428,183 円
12 電話加入権		38 台	2,273,222 円

※土地および建物の面積は、登記上の数値による。

科 目		金 額
二 運 用 財 産		(36,644,356,693 円)
1 現 金、預 金		15,261,851,867 円
2 第2号基本金引当特定資産		7,019,624,477 円
3 第3号基本金引当特定資産		375,012,839 円
4 減価償却引当特定資産		9,300,000,000 円
5 退職給与引当特定資産		1,978,840,847 円
6 多摩美術大学創立80周年記念奨学基金 引当特定資産		77,285,029 円
7 有 価 証 券		2,417,460,971 円
内 訳	(1)利付国債	617,480,971 円
	(2)財投機関債	299,980,000 円
	(3)銀行債	1,000,000,000 円
	(4)事業債	500,000,000 円
8 差入保証金		1,265,750 円
9 長期貸付金		133,245 円
10 未 収 入 金		146,404,952 円
11 前 払 金		65,919,412 円
12 立 替 金		557,304 円
資 産 総 額		72,496,541,770 円
負 債		
一 固 定 負 債		(1,978,840,847 円)
1 退職給与引当金		1,978,840,847 円
二 流 動 負 債		(4,577,271,382 円)
1 未 払 金		374,672,531 円
2 前 受 金		3,909,852,280 円
3 預 り 金		292,746,571 円
負 債 総 額		6,556,112,229 円
正味財産(資産総額－負債総額)		65,940,429,541 円